

日本看護技術学会 第 24 回学術集会

ノーリフト®の企業展示・シンポジウム・セミナー活動報告

開催日： 2026 年 10 月 11 日（日）・12 日（月・祝） **会場：** 聖路加国際大学（東京都中央区）

1.概要

2026 年 10 月 11 日（日）・12 日（月・祝）に開催された日本看護技術学会 第 24 回学術集会において、ノーリフト®の普及・啓発に向けた企業展示、シンポジウムおよびランチョンセミナーが行われました。

今回の学術集会では、看護・介護現場における職員の身体的負担の軽減と、患者さん・利用者一人ひとりの尊厳を尊重したケアの実現を目指し、福祉機器の活用やテクノロジーとの協働による看護技術の可能性について発信しました。

参加者数

- 学会全体の参加者数は、1000 名に及んだと大久保学術集会長よりご連絡いただきました。
- ランチョンセミナー参加者数はおおよそ（お弁当配布数より）2 日間で計 423 名
 - ランチョンセミナーⅠ「ノーリフト®から始まる看護技術の未来」：215 名
 - ランチョンセミナーⅣ「ヘルスケアにおけるフィジカル AI」：208 名
- 企業展示参加者数：1 日目（10 月 11 日）350 名、2 日目（10 月 12 日）200 名

2.企業展示

企業展示では、ノーリフトに関連する企業 10 社以上が参加し、移乗・移動支援、ポジショニング、入浴支援、排泄ケアなど、看護・介護現場での活用を想定した多様な製品が紹介されました。会場にはあふれんばかりの人がご来場くださり、1 日目にして 2 日間分のノベルティをお渡ししてしまうほどでした。打ち合わせをはじめ、会場配置やノベルティの準備、展示の取りまとめにご尽力いただきました「川崎重工業株式会社」の皆様にも心から感謝申し上げます。

川崎重工業株式会社様より『展示エリアを通して、ノーリフトの考え方を製品・サービス・現場実践の各側面から総合的に発信することができたと感じています。このような価値ある展示を実現できたのも、参加企業の皆様のご協力があったからこそであり、心より御礼申し上げます。』



展示ご協力企業様

川崎重工業株式会社/アルケア株式会社/株式会社情報システムエンジニアリング/
ラックヘルスケア株式会社/ユニ・チャーム株式会社/
株式会社いすら/株式会社 FUJI
/日本精工株式会社/シーホネンス株式会社
/NEOABLE CO., LTD./パラマウントベッド株式会社



3. シンポジウムⅠ「ノーリフトの世界」

日時：2026年10月11日（日）14:50～16:20

ノーリフトケアコーディネーターでもあられる窪田静氏（うごケア Labo）が座長を務め、シンポジストとして、NLA 特別顧問の埴田和史氏（一般社団法人日本ノーリフト協会 監事・特別顧問/びわこリハビリテーション専門職大学）、山田雅子氏（聖路加国際大学大学院看護学研究科）、保田淳子（一般社団法人日本ノーリフト協会）が登壇しました。シンポジウムでは、ノーリフトをテーマに、看護教育や現場マネジメント、教科書改訂に至るまで意見交換がされました。また、在宅領域への展開を提示し「次世代に繋ぐ看護技術」として不可欠であることを確認するとともに、ノーリフトが単なる技術でなく、看護の安全・質・持続可能性を支える基盤であることを再認識する場となりました。



4. ランチョンセミナーⅠ

「ノーリフト®から始まる看護技術の未来 — オーストラリア実証から考える 人とテクノロジーの協働 —」

日時：2026年10月11日（日）12:20～13:20

保田淳子（一般社団法人日本ノーリフト協会 代表理事）が司会・進行を務め、川崎重工業株式会社の市川和宏氏、吉川公美子氏が登壇しました。

本セミナーでは、「質の高い個別ケア」と「職員が長く働き続けられる職場」の両立をテーマに、オーストラリアの介護施設における実践事例と、位置情報を活用した介護現場の実態調査について紹介しました。

ノーリフトケア®を基盤に、福祉機器の活用だけでなく、継続的な職員教育、標準化された業務設計、多職種によるケアマネジメントを組み合わせることの重要性が取り上げられました。職員・利用者・機器の位置情報を活用して、利用者の生活範囲や過ごし方、職員の業務負荷、ケア提供の実態を可視化した調査結果についても紹介されました。こうしたデータを踏まえ、組織的な仕組みのもとで教育、業務設計、テクノロジー活用を組み合わせることで、利用者主体のケアと働きやすい職場環境を両立する可能性について考える内容となりました。

5. ランチョンセミナーⅣ

「ヘルスケアにおけるフィジカル AI」

日時：2026年10月12日（月・祝）12:00～13:00

学術集会長の久保暢子氏（学術集会長・聖路加国際大学大学院看護学研究科 教授）が座長を務め、浅間一氏（早稲田大学 次世代ロボット研究機構 上級研究員〔研究院教授〕／東京大学名誉教授）が登壇しました。



講演では、物理的な身体を持ち、実環境や人と相互作用するフィジカル AI について、その技術動向とヘルスケア分野での活用可能性が取り上げられました。看護・介護現場における人手不足や職員の身体的負担の軽減を背景に、人とロボットが協働することによる支援の可能性とリスクについて考察し、また、ノーリフトポリシーの実現に向けた技術のあり方や、災害医療を含む非常時での活用可能性についても紹介されました。

川崎重工業株式会社様より『フィジカル AI を単なる自動化技術ではなく、「人の身体・脳・環境の相互作用を理解し、人と協働しながらウェルビーイングを向上させる技術」として捉えている点が非常に印象的でした。特に、ノーリフトの実現や介護現場の負担軽減に向けては、人を代替するのではなく人の力を引き出すロボティクスの重要性を改めて認識しました。』

6. 今後に向けて

企業様と一緒に学会に参加することの意義を感じると同時に、看護師をはじめとする病院でのノーリフトケアの取り組みについて検討を重ねていきたいとあらためて考えさせられる内容が多くありました。

診療報酬制度へのアプローチ・教科書改訂など、来年度は様々な学会参加を検討しております。参加する学会についても、是非、賛助企業の皆様と共に意見交換を進めたいと考えております。

ご協力いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。